

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)MFLP杉戸 新築工事	階数	地上3F
建設地	埼玉県北葛飾郡杉戸町	構造	S造
用途地域	都市計画区域内,市街化区域	平均居住人員	121 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2025年12月8日
敷地面積	7,290 m ²	作成者	佐々木謙
建築面積	4,275 m ²	確認日	2025年12月8日
延床面積	12,805 m ²	確認者	佐々木謙



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ (30%) ☆☆☆☆☆ (60%) ☆☆☆☆☆ (80%) ☆☆☆☆☆ (100%) ☆☆☆☆☆ (100%超)

標準計算

- ①参照値: 46 (kg-CO₂/年・m²)
- ②建築物の取組み: 37%
- ③上記+②以外の: 37%
- ④上記+: 37%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項	
総合	省エネルギー性能の高い外皮及び設備を採用した。
その他	特になし
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	階高や空間にゆとりを持たせた。
Q3 室外環境(敷地内)	立地特性や緑化計画に配慮することで、生物環境の保全と創出を実現した。
LR1 エネルギー	建物外皮の熱負荷抑制・設備システムの高効率化を行い、建築物を運用する際に発生するエネルギー消費を低減させた。
LR2 資源・マテリアル	LGS工法、OAフロアの採用により部材の再利用可能性向上への取組みを行った。
LR3 敷地外環境	燃焼機器不使用による大気汚染防止や、駐車スペース等の確保による交通処理負荷抑制を図ることで、地球環境へ配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)MFLP杉戸 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能					0.43			3.5
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性				2.9	0.50			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20			
2.4 信頼性				2.6	0.20			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			

3 対応性・更新性			4.2	0.50	-	-	4.2	
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-		
1	階高のゆとり	階高 7.0m	5.0	0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.091	5.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-		
			15,000N/m ²					
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-		
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.7	
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI = 0.66		5.0	0.20	5.0	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = -		5.0	0.50	5.0	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価			-	-	-	-		
4.1	モニタリング		-	-	-	-		
4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8	
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0	
1.1 節水			3.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.22	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.22	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			OAフロア、LGS下地の採用		5.0	0.22	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.7	0.20	-	-	2.7	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70	-	-		
1	消火剤		2.0	0.33	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-		
3	冷媒		3.0	0.33	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率 37%		5.0	0.33	5.0	
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4	
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない		5.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	駐車スペースの設置	4.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-		
1	騒音		-	-	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67	-	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		-	-	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			3.0	0.33	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-		
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)MFLP杉戸 新築工事	BEE	1.6	BEEランク	★★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
5.0	+	2.6	=	7.6	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	5.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	5.0
<配慮した内容を記述> 省エネルギー性能の高い外皮及び設備を採用した。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 建物に配慮した緑化を採用している。			

:入力欄